



PTA の部 最優秀賞
鷹巢中&PTA『若鷹の飛翔～未来への挑戦～』



学校幼稚園の部 最優秀賞
獅子島幼稚園・小・中学校『獅子島の魅力いっぱい!』



一般の部 最優秀賞
塩追自治公民館『塩追の大天狗』



会場を盛り上げた和太鼓集団「和楽」



テープカットで開場

ある」と言っている。完成に向けての作業で協同意識や町づくりの意識が高まっていくのではないかと思う。来場の皆さんには、町民一丸となつて作り上げた作品の魅力を存分に味わってほしい」とあいさつしました。

セレモニー終了後は、鹿児島大学名誉教授で彫刻家の池川直^{すなお}審査委員長をはじめ、4人の審査委員により、「一般の部」、「PTAの部」、「学校幼稚園の部」の3部門に分けて審査を行いました。

この日は、制作に携わった公民館の人たちやPTA関係者など多くが集まり、審査結果発表を心待ちにしていました。

池川審査委員長は「40年近い歴史を持つ野外造形美術展は全国でも珍しい。本町がこの礎^{いしずえ}と言ってもいいのではないかと思う。作品を審査していると各団体が楽しみながら制作したことが思い浮かべられた。住民が和を持って造形物を作ること自治体も元気がでる。今回の作品たちは、特に『造形』に焦点が当てられている。同美術展が今後長く続けられていくことに期待したい」と講評しました。

10月11日、第20回ながしま造形美術展が太陽の里ピクニック広場で開幕しました。

同イベントは、2年に1回、町民が丸となって取り組む大イベントで、昭和60年、旧東町で始まり、平成18年の町合併後も続けられ、今回で20回目の開催です。

町民自らがアーティストとなり、スギの葉やススキ、ヒオウギ貝など自然の素材や空き缶、ペットボトルなどの廃材を使った1歳・3歳・5歳^{5歳以上}超級の力作が会場所狭しと並びました。

今回の造形美術展には、自治公民館や学校、PTA、各種団体などから計81体の作品が寄せられ、11月9日までの約1カ月間来場者を楽しませました。

11日の開会式では、オープニングセレモニーに併せて、和太鼓集団「和楽」による演奏が会場を盛り上げました。

式では、ながしま造形美術展実行委員会の木場盛一副実行委員長が「今年で20回目の開催を迎えることができたのは、これまで長年にわたり、出品を続けて来た皆さんのおかげ。今回も世代を超えた感性あふれる爽快な作品が会場を埋め尽くしている。川添町長は、日ごろから『造形展は町づくりの原点で